

ニホンジカ食害防除対策検討会を開催

[岐阜署]10月19日にケーススタディ(※国の森林総合監理士等が市町村への協力を推進するための事例研究)地区の七宗町において、岐阜署、森林技術・支援センターの共催で、ニホンジカ食害防除対策検討会を開催しました。

ニホンジカの食害が深刻化している中、適正な頭数に管理する個体数調整や、造林地へシカを侵入させない、あるいは食害を防止するための防護対策について、国、県、市町村が情報を共有し、意見交換を行うことにより、この地域でより効果的な対策を行うことを目的とするもので、市町村職員等12名、岐阜県職員5名、国有林職員13名が参加しました。

今年度は各市町村の森林管理委員会への出席等により、国有林の所在しない市町や森林組合等からも参加していただきました。

午前中は岐阜県森林研究所の岡本専門研究員からニホンジカ対策の現状と課題について、また岐阜署の松嶋総括地域林政調整官から国有林におけるニホンジカ対策について講義と意見交換を行いました。

あいにくの雨で午後からの現地検討会は縮小して行いましたが、森林技術・支援センターの三村森林技術普及専門官から七宗国有林に設営したシカ対策試験地の概要説明、建物の外でくりワナの実習を行いました。

主伐・再造林を進めるにあたり、ニホンジカ対策は重要であり、低コストで効果が期待できる防除対策やくりワナに関する質問が多く出され、有意義な意見交換になりました。

今後もケーススタディ地区の七宗国有林をフィールドとして研修会等を積極的に開催していきます。



講義に聞き入る参加者